

中学生連載企画 私たちのふるさと松山学 No.16

内宮 中学校

明治時代の堀江沖海難事故 「堀江水難救済所」による懸命な救助活動

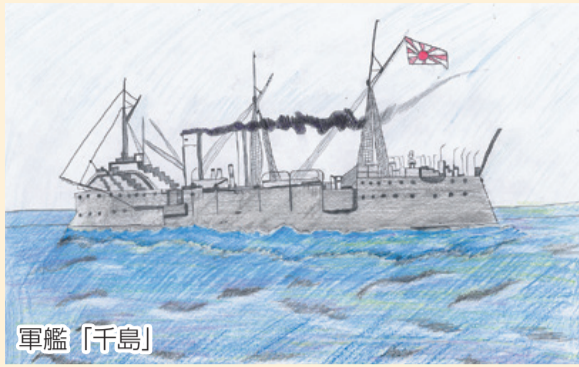
明治時代に堀江沖で起きたイギリスの商船ラベンナ号と日本の軍艦千島が衝突した「千島艦衝突事故」。私たちはこの事故の際に救助などに尽力した「堀江水難救済所」のことに調べてみました。

軍艦「千島」の沈没

1892年11月30日午前5時ごろに悲劇は起こりました。

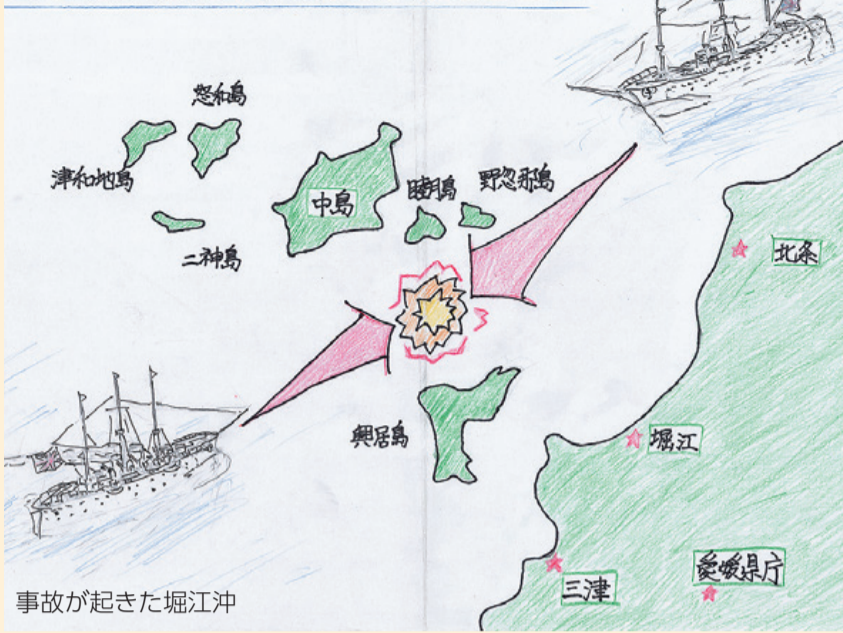
「ドカーン」と堀江沖に大きな音が響き渡りました。イギリスの商船ラベンナ号と日本の軍艦千島がぶつかったのです。

「逃げるー」「海に飛び込めー」と悲痛な叫びと怒号が飛び交いました。しかし、ほとんどの人が逃げ遅れ、



軍艦「千島」

千島艦衝突沈没 地図



事故が起きた堀江沖

1889	明治22年	堀江村村長の門屋履徳が「堀江水難救済所」を開設
1892	明治25年	日本海軍がフランスに発注し、軍艦千島完成
1892	明治25年	堀江沖で海難事故が発生し、軍艦千島沈没
1903	明治36年	「堀江水難救済所」開所式
1917	大正6年	千島艦遭難の出来事を後世に伝えるために、「千島艦遭難碑」建立
1968	昭和43年	正岡子規の句碑堀江町民が建てる

軍艦千島はたった2分ほどで沈没してしまいました。乗員約90人のうち、溺死者70人以上、生存者はたった十数人という最悪の海難事故となりました。

堀江の人たちによる懸命な救助活動

船の様子を見て、堀江村の人たちは、直ちに行動を起こしました。堀江村役場職員・野本岩五郎さんは、門屋履徳村長の指示を受け、白鷹善四郎さんから数人とすぐさま船を出し、ラベンナ号に駆けつけました。

一方、ラベンナ号は船首に亀裂が生じただけで、損傷は軽く、死亡者はいませんでした。ラベンナ号は衝突時、旗旗信号を行ったり、火矢や砲声を発したりするなど、必死で事故を知らせました。なんとか生き残った

た軍艦千島の乗員たちはラベンナ号に収容されたので、衣服を与え、ゆつくりと休ませました。しかし大けがをしている人も多く、愛媛県立病院からも医師らが駆けつけ治療に当たりました。

堀江村では、海岸に事務所を設置し、堀江水難救済所の人たち数十人が海に投げ出された千島艦の人々を懸命に探していました。5日間に渡り、昼夜を問わず必死の捜索が行われました。しかし誰も見つからず、捜索打ち切りの時には、救助に当たった堀江水難救済所の人々は悲嘆に暮れました。

ナ号に駆けつけました。しかしラベンナ号の乗員とは全く言葉が通じず、途方に暮れました。そんな状況の中、水先人の北野芳兵衛さんの協力で、状況を把握することができました。

「千島艦遭難碑と正岡子規の句碑」 こうした千島艦衝突沈没事故の悲しい出来事を忘れないため、1917年1月14日東郷平八郎元帥の揮毫による「千島艦遭難碑」が堀江村民によって浄福寺境内に建てられ、のちの1968年に正岡子規の句碑が堀江町民によって、「千島



浄福寺に建つ千島艦遭難碑(左)と正岡子規の句碑

行動を起こすことの大切さ

今回の学習で堀江水難救済所の人々の心の広さに驚き、感動しました。そして、行動を起こすことの大切さを学びました。このような事故が二度と起こらないことを願い、事故の悲惨さや堀江の人々の勇気を多くの人に知ってもらえるよう伝えていきたいです。



上段左から芳野麗王さん、須賀椋也さん、甲谷遊椰さん、下段左から野本亜子さん、若江美咲さん、小池陽菜詩さん (いずれも3年)

先人と文化の読み物教材 「語り継ぎたいふるさと松山百話」I・II・III



第II巻に千島の悲劇を収録

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることが出来ます。